

デーヴォ ガイド



2022.7.11-17

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ①お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。(2~3つ)
- ②1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い(なるべく短く)
- ④預言の祈り(主の御心を宣言して祈り)をします。

セル ガイド

- ①祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ②互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ディポジションの分かち合いをします。
- ④セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族のでいいのです。

- ①この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと?
- ②この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか?(または誉めたいですか?)1つだけ。
- ③聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか?
- ④互いの必要のために祈りましょう。

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは?(信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちなど)

②どんな思いになりましたか?(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか?(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか?)

④この世にあって何を実践しますか?

3:1 私たちはまたもや自分を推薦しようとしているのでしょうか。それとも、ある人々のように、あなたがたにあてた推薦状とか、あなたがたの推薦状とかが、私たちに必要なのでしょうか。

3:2 私たちの推薦状はあなたがたです。それは私たちの心にしるされていて、すべての人に知られ、また読まれているのです。

3:3 あなたがたが私たちの奉仕によるキリストの手紙であり、墨によってではなく、生ける神の御霊によって書かれ、石の板にではなく、人の心の板に書かれたものであることが明らかだからです。

3:4 私たちはキリストによって、神の御前でこういう確信を持っています。

3:5 何事かを自分のしたことと考える資格が私たち自身にあるというではありません。私たちの資格は神からのものです。

3:6 神は私たちに、新しい契約に仕える者となる資格をくださいました。文字に仕える者ではなく、御霊に仕える者です。文字は殺し、御霊は生かすからです。

3:7 もし石に刻まれた文字による、死の務めにも栄光があって、モーセの顔の、やがて消え去る栄光のゆえにさえ、イスラエルの人々がモーセの顔を見つめることができなかつたほどだとすれば、

3:8 まして、御霊の務めには、どれほどの栄光があることでしょう。

3:9 罪に定める務めに栄光があるのなら、義とする務めには、なおさら、栄光があふれるのです。

3:10 そして、かつて栄光を受けたものは、こ

のばあい、さらにすぐれた栄光のゆえに、栄光のないものになっているからです。

3:11 もし消え去るべきものにも栄光があったのなら、永続するものには、なおさら栄光があるはずです。

コリント教会にはパウロを指導者として疑問視する人もいましたが、彼は他の権威からの推薦状には頼りませんでした。「推薦状はあなたがたです。」と、彼は自分がコリント教会の人々を導き育てたことこそが、指導者としての自分を証明しているというのです。確かに人から認められることで安心するよりも、主の尊いみわざを担うことによって、霊的理解力がある人々から認められることができるのです。

しかしパウロは自分の実績について、「自分のしたことと考える資格」はないと言います。主の働きをする者は、どんなことであれそれは主のものであり、主の霊すなわち聖霊に仕えることによって、成り立つものです。礼拝も交わりも伝道も、聖霊によって行いましょう。

モーセは「石に刻まれた」律法によって仕えましたが、あれほどの栄光を表したのですから、新約の私たちが聖霊によって仕えるなら、「どれほどの栄光があることでしょう。」とパウロは、感動をもって強調します。聖霊を求め従い愛して仕えることの栄光を常に心に感じましょう。そして進んで行きましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



3:12 このような望みを持っているので、私たちはきわめて大胆に語ります。

3:13 そして、モーセが、消えうせるものの最後をイスラエルの人々に見せないように、顔におおいを掛けたようなことはしません。

3:14 しかし、イスラエルの人々の思いは鈍くなったのです。というのは、今日に至るまで、古い契約が朗読されるときに、同じおおいが掛けられたままで、取りのけられてはいません。なぜなら、それはキリストによって取り除かれるものだからです。

3:15 かつて、今日まで、モーセの書が朗読されるときはいつでも、彼らの心にはおおいが掛かっているのです。

3:16 しかし、人が主に向くなら、そのおおいは取り除かれるのです。

3:17 主は御霊です。そして、主の御霊のあるところには自由があります。

3:18 私たちはみな、顔のおおいを取りのけられて、鏡のように主の栄光を反映させながら、栄光から栄光へと、主と同じかたちに姿を変えられて行きます。これはまさに、御霊なる主の働きによるのです。

パウロはコリント教会の人々に、福音のすばらしさを何とか分かってもらいたいと、様々に語ります。福音、すなわち滅びに定められていた私たちの現実、またそこからの救い、そのためのイエス様の十字架、また永遠の命と神の子としての恵…。これらを知るなら、コリント教会に限らず、誰でも主に従い、みこころを行おう心から思うことでしょう。

パウロは旧約の律法の時代と今の福音の時代との対比によって、明らかにしようとします。すなわち、モーセは神と交わったときには、神の栄光によってモーセ自身までもが光輝き、人々が恐れるので「お

おいを掛け」なければならなかったということです。しかしその栄光も一時的なものなので、まるで「消えうせるものの最後」を隠しているかのようでした。律法時代の栄光とはそのようなものだったのです。

しかし、福音の栄光は違います。それは永遠のものだからです。またイエス様が命と引き換えに救ってくださったということは、私たちのような者でも、それほどの価値を認めていただけたということです。何という光栄でしょうか！

しかしイスラエルの人々は、「思いが鈍く」なって 福音の栄光に気づくことができず、イエス様の救いを受け入れることができませんでした。ただしイスラエルの人もまた現代の人々も、「主に向くなら、そのおおいは取り除かれる」のです。

福音の真理を知り、イエス様の十字架による赦しをいただいた私たちは、主の御霊によってそのようにさせていただきました。御霊は人を死と罪の縄目から解放して「自由」を与えてくださいますから、私たちは自由の身になっています。つまり、主の真理を知ることのできないような、「顔のおおいを取りのけ」られたのです。

私たちは「栄光から」さらなる「栄光」へと前進・成長することができます。それを信じて、そのような生き方を大胆に実践し、「主の栄光を反映させて」行きましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたどの部分を主は抜おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



▶13日 水曜

Ⅱコリント

4:1 こういうわけで、私たちは、あわれみを受けてこの務めに任じられているのですから、勇気を失うことなく、

4:2 恥ずべき隠された事を捨て、悪巧みに歩まず、神のことは曲げず、真理を明らかにし、神の御前で自分自身をすべての人の良心に推薦しています。

4:3 それでもなお私たちの福音におおいが掛かっているとしたら、それは、滅びる人々のばあいに、おおいが掛かっているのです。

4:4 そのばあい、この世の神が不信者の思いをくらませて、神のかたちであるキリストの栄光にかかわる福音の光を輝かせないようにしているのです。

4:5 私たちは自分自身を宣べ伝えるのではなく、主なるキリスト・イエスを宣べ伝えます。私たち自身は、イエスのために、あなたがたに仕えるしもべなのです。

4:6 「光が、やみの中から輝き出よ。」と言われた神は、私たちの心を照らし、キリストの御顔にある神の栄光を知る知識を輝かせてくださったのです。

4:7 私たちは、この宝を、土の器の中に入れていっているのです。それは、この測り知れない力が神のものであって、私たちから出たものでないことが明らかにされるためです。

4:8 私たちは、四方八方から苦しめられますが、窮することはありません。途方にくれています、行きつまることはありません。

4:9 迫害されていますが、見捨てられることはありません。倒されますが、滅びません。

4:10 いつでもイエスの死をこの身に帯びていますが、それは、イエスのいのちが私たちの



身において明らかに示されるためです。

4:11 私たち生きている者は、イエスのために絶えず死に渡されていますが、それは、イエスのいのちが私たちの死ぬべき肉体において明らかに示されるためなのです。

4:12 こうして、死は私たちのうちに働き、いのちはあなたがたのうちに働くのです。

自分自身が「栄光から栄光に進む」という事実を知った者は、その生き方が変わります。すなわちパウロとその同労者たちのように、「勇気を失うことなく、恥ずべき隠された事を捨て、悪巧みに歩まず、神のことは曲げず、真理を明らかに」するようになるのです。それを信じて行動しましょう。

3節4節には福音を信じようとしぬ人々の原因が述べられています。それは霊的な「おおいが掛かっている」ということです。ですから、私たちはその人を愛して、霊的レベルで仕えることが必要になります。

そのような永遠に価値のある働きをするのがクリスチャンです。クリスチャンはあくまでも器に過ぎないもので、大事なものは中身です。中身は福音の宝、イエス様ご自身です。ですから誰であっても、どんな器であったも尊いそして力ある働きができるのです。自分を見て自己嫌悪も自身損失も、また言い訳も必要ありません。

しかしまた力ある働きができるということは、サタンから憎まれることにもなります。「四方八方から苦しめられ」ることもあるのです。しかし主の働き人は「見捨てられることはありません。倒されますが、滅びません。」と聖書にある通りです。主の同労者だからです。

不信仰や不従順のままでサタンを安心させるよりも、主の同労者として主から助けられて生きましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



4:13 「私は信じた。それゆえに語った。」と書いてあるとおり、それと同じ信仰の霊を持っている私たちも、信じているゆえに語るのです。

4:14 それは、主イエスをよみがえらせた方が、私たちをもイエスとともによみがえらせ、あなたがたといっしょに御前に立たせてくださることを知っているからです。

4:15 すべてのことはあなたがたのためであり、それは、恵みがますます多くの人々に及んで感謝が満ちあふれ、神の栄光が現われるようになるためです。

4:16 ですから、私たちは勇気を失いません。たとえ私たちの外なる人は衰えても、内なる人は日々新たにされています。

4:17 今の時の軽い患難は、私たちのうちに働いて、測り知れない、重い永遠の栄光をもたらすからです。

4:18 私たちは、見えるものではなく、見えないものにこそ目を留めます。見えるものは一時的であり、見えないものはいつまでも続くからです。

信仰の生涯をどのように考えるかは、非常に大切です。信仰が強ければ、クリスチャンには良いことばかりあると思っている人もいます。別の面から言うなら、「患難」があるのは信仰が足りないからだという考え方です。または、熱心に祈るなら神様は願いを叶えてくれるはずなのだろう考え方です。

聖書はそのようには書いていません。パウロのような信仰と献身に満ちた人でも、「絶えず死に渡されています」と告白しています。なぜでしょうか。

それは「イエスのいのちが…明らかに示されるため」であり、「神の栄光が現われるようになるた

め」です。私たちは祈りによって主を支配することは不可能です。あくまでも主の主権のもとにお願いするのです。そして主は私たちの考えよりもはるかにまさった結果を与えてくださいます。私たちは祈ることによって、主からお答えをいただき、主のはるかにまさるみこころを教えていただけるのです。そして納得し感謝し、主の栄光を心から喜ぶことができます。

「今の時の軽い患難は、私たちのうちに働いて、測り知れない、重い永遠の栄光をもたらす」と信じぬきましょう。そして主がお定めになった永遠の勝利をいただきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



5:1 私たちの住まいである地上の幕屋がこわれても、神の下さる建物があることを、私たちは知っています。それは、人の手によらない、天にある永遠の家です。

5:2 私たちはこの幕屋にあってうめき、この天から与えられる住まいを着たいと望んでいます。

5:3 それを着たなら、私たちは裸の状態になることはないからです。

5:4 確かにこの幕屋の中にいる間は、私たちは重荷を負って、うめいています。それは、この幕屋を脱ぎたいと思うからでなく、かえて天からの住まいを着たいからです。そのことによって、死ぬべきものがいのちのまれてしまうためにです。

5:5 私たちをこのことにかなう者としてくださった方は神です。神は、その保証として御霊を下さいました。

5:6 そういうわけで、私たちはいつも心強いのです。ただし、私たちが肉体にいる間は、主から離れているということも知っています。

5:7 確かに、私たちは見るところによってではなく、信仰によって歩んでいます。

5:8 私たちはいつも心強いのです。そして、むしろ肉体を離れて、主のみもとにいるほうがよいと思っています。

5:9 そういうわけで、肉体の中にあろうと、肉体を離れていようと、私たちの念願とするところは、主に喜ばれることです。

5:10 なぜなら、私たちはみな、キリストのさばきの座に現われて、善であれ悪であれ、各自その肉体にあってした行為に応じて報いを受けることになるからです。

コリント教会には問題（のある人々）が存在していましたが、パウロの先の手紙によってその問題点に気づきました。またパウロの厳格な対応によって、その混乱を起こす人も悔い改めました。しかしまだ頑ななひとは、いっそう頑迷になったのですが、パウロはそのことを考慮しつつも、コリント教会の人々に信仰の重要な基本を再教育しています。

その中でも重要なのが、永遠の命とそれによる復活です。それがどんなものであるかをパウロは説明しています。

幕屋とはモーセの時代に神がご自身を表したものであり、また移動可能な一時的な住まいでした。それはまさに私たちの肉体を表しています。肉体が機能しなくなったら何もかも終りになると思う人もいます。しかしそうではありません。何もかもが終りでないのです。むしろその後には、神のくださる建物があり、それは幕屋のような一時的なものではなく、恒久的なものなのです。

そのようなすばらしい約束に与（あずか）れるのは、人間の力や権威ではなく神によってであり、その保証は、救われたときに与えられた御霊なのです。ですから死が怖い、死に打ち勝つ信仰が欲しいという場合は、ただ聖霊により頼むことでその力が与えられるのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？





5:11 こういうわけで、私たちは、主を恐れることを知っているのです。人々を説得しようとするのです。私たちのことは、神の御前に明らかです。しかし、あなたがたの良心にも明らかになることが、私の望みです。

5:12 私たちはまたも自分自身をあなたがたに推薦しようとするものではありません。ただ、私たちのことを誇る機会をあなたがたに与えて、心においてではなく、うわべのことで誇る人たちに答えることができるようにさせたいのです。

5:13 もし私たちが気が狂っているとすれば、それはただ神のためであり、もし正気であるとすれば、それはただあなたがたのためです。5:14 というのは、キリストの愛が私たちを取り囲んでいるからです。私たちはこう考えました。ひとりの人がすべての人のために死んだ以上、すべての人が死んだのです。

5:15 また、キリストがすべての人のために死なれたのは、生きている人々が、もはや自分のためにではなく、自分のために死んでよみがえった方のために生きるためなのです。

5:16 ですから、私たちは今後、人間的な標準で人を知ろうとはしません。かつては人間的な標準でキリストを知っていたとしても、今はもうそのような知り方はしません。

5:17 だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。

5:18 これらのことはすべて、神から出ているのです。神は、キリストによって、私たちをご自分と和解させ、また和解の務めを私たちに与えてくださいました。

5:19 すなわち、神は、キリストにあって、この世をご自分と和解させ、違反行為の責めを人々に負わせないで、和解のこぼを私たちにゆだねられたのです。

5:20 こういうわけで、私たちはキリストの使節なのです。ちょうど神が私たちを通して懇願しておられるようです。私たちは、キリストに代わって、あなたがたに願います。神の和解を受け入れなさい。

5:21 神は、罪を知らない方を、私たちの代わりに罪とされました。それは、私たちが、この方において、神の義となるためです。

パウロは自分の動機や熱心さをコリント教会の人々に知って欲しいと願っています。それは自己推薦のためではなく、彼らをして「うわべのことで誇る人たちに答えることができるように」させるためです。クリスチャンは謙遜が必要ですが、それは自分を単に目立たなくすることではありません。主のためには人々の注目を浴びる場合もあります。むしろそれは言い訳のできない立場であり、本当に謙遜にさせられるものです。パウロは人々の成長のためにあえて自分の証しをしているのです。

人は同じように行動してしていても、その動機によって周囲への影響が違ってきますし、また何かの出来事でその内面が明らかになってしまうものです。パウロの動機はまさに「キリストの愛」でした。イエス様を愛して行うことならば、純粋な動機と言って間違いのないものです。

イエス様すなわち「死んでよみがえった方」のために生きるなら、それは人間的な生き方ではありません。目的も力も原理もまったく違います。当然、人を見る目も物事を見る目も全く違ってきます。それこそが「新しく造られた者」です。

それは人との愛の関係、特に和解のわざに表れます。神との和解は救いの本質であり、人との和

解はクリスチャンの美しい証であり、力ある証しです。キリストのために生きる者であるなら、あらゆる人と愛の関係を築くようにしていきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？





6:1 私たちは神とともに働く者として、あなたがたに懇願します。神の恵みをむだに受けないようにしてください。

6:2 神は言われます。「わたしは、恵みの時にあなたに答え、救いの日にあなたを助けた。」確かに、今は恵みの時、今は救いの日です。

6:3 私たちは、この務めがそしられないために、どんなことにも人につまずきを与えないようにと、

6:4 あらゆることにおいて、自分を神のしもべとして推薦しているのです。すなわち非常な忍耐と、悩みと、苦しみと、嘆きの中で、

6:5 また、むち打られるときにも、入獄にも、暴動にも、労役にも、徹夜にも、断食にも、

6:6 また、純潔と知識と、寛容と親切と、聖霊と偽りのない愛と、

6:7 真理のことばと神の力とにより、また、左右の手に持っている義の武器により、

6:8 また、ほめられたり、そしられたり、悪評を受けたり、好評を博したりすることによって、自分を神のしもべとして推薦しているのです。私たちは人をだます者のように見えても、真実であり、

6:9 人に知られないようでも、よく知られ、死にそうでも、見よ、生きており、罰せられているようであっても、殺されず、

6:10 悲しんでいるようでも、いつも喜んでおり、貧しいようでも、多くの人を富ませ、何も持たないようでも、すべてのものを持っています。

6:11 コリントの人たち。私たちはあなたがたに包み隠すことなく話しました。私たちの心

は広く開かれています。

6:12 あなたがたは、私たちの中で制約を受けているのではなく、自分の心で自分を窮屈にしているのです。

6:13 私は自分の子どもに対するように言います。それに報いて、あなたがたのほうでも心を広くしてください。

「神の恵みをむだに受けないように」とは、救いのチャンスを逃さないようにということです。それは伝道のためです。「今は恵みの時、今は救いの日」とあるからです。「いつか伝道しよう」「いつか主のために働こう」「そのうちに福音を伝えよう」では手遅れになるかもしれないからです。今を逃しては救いのチャンスがなくなるのです。

ですからパウロの伝道はノンストップです。伝えやすいときもあれば、そうでないときもあり。評判の良いときもあれば、そしられるときもあると言っていますが、どんなときでもパウロは伝道しました。

私たちは救いを伝えるのに、またはその準備をするのに、整った条件を待ちすぎかもしれませんが、待っているだけで時が過ぎて、チャンスを失っている人があまりにも多いのではないのでしょうか。

「何も持たないようでも、すべてのものを持っています」とは、神様の視点から見たときの違いを表しています。人間的な判断で消極的にならないようにしましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

